

## 21世紀大学経営協会「関西教育シンポジウム」アンケート 集計結果

1. 日 時 2007年(平成19年)3月3日(土) 午後1時~午後4時20分

2. 場 所 大阪商工会議所 国際会議ホール

3. 式次第

主催者挨拶(13:00~13:10)

宮内義彦(21世紀大学経営協会 理事長)

<第一部>(13:10~14:10)

基調講演 「これからの大学教育に望む」

塩川 正十郎 氏 (21世紀大学経営協会 最高顧問)

<第二部>(14:20~16:20)

パネルディスカッション「産業界が大学教育に期待する人材とは」  
~『社会人基礎力』育成に向けて~

[パネリスト]

(教育関係者) 石川憲一氏 金沢工業大学 学長

谷岡一郎氏 大阪商業大学 学長

八田英二氏 同志社大学 学長

(産業界関係者) 野村明雄氏 大阪商工会議所会頭、大阪ガス株式会社社長

宮内義彦氏 オリックス株式会社社長、21世紀大学経営協会理事長

(経済産業省) 守本憲弘氏 経済産業政策局 産業人材政策担当参事官

[コーディネーター]

小島貴子氏 立教大学大学院ビジネスデザイン研究科准教授(4月から)

4. 共 催 経済産業省

5. 後 援 大阪商工会議所

日本経済新聞社・大阪本社

日本私立大学団体連合会

NPO法人 学校経営研究会

NPO法人 国立大学マネジメント研究会

6. 協 賛 オリックス株式会社

株式会社 進研アド

丸ガンスケル証券 株式会社

7. 出席者 458人

8. アンケート回答者 172人 (出席者の37.6%の方がご回答)

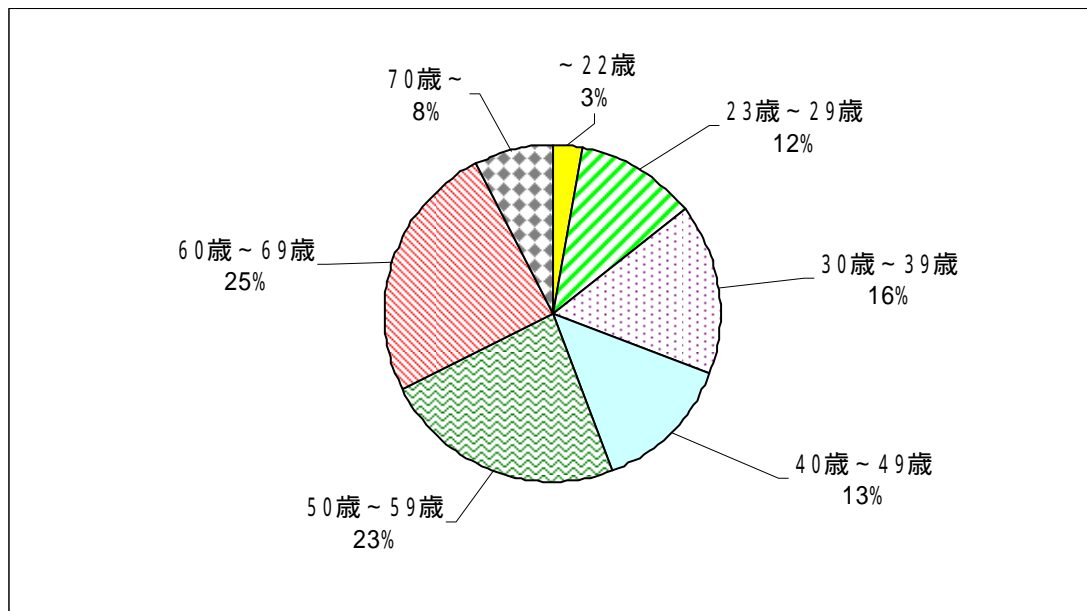
(アンケート回答者の内訳)

大学教員 20人、 大学職員 42人、 教育関係者 10人、 学生 7人、

学生父母 4人、 企業関係者 42人、 一般 47人、 計 172人

**(アンケート回答者の年齢別内訳)**

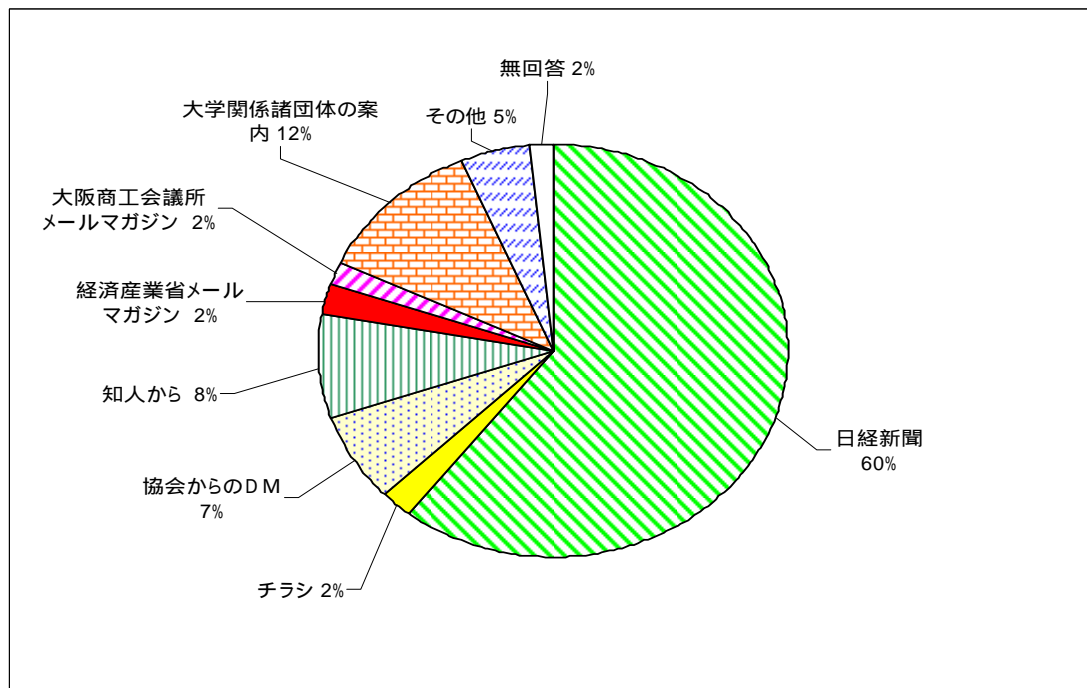
～22歳	5人、	23歳～29歳	20人、	30歳～39歳	28人、
40歳～49歳	23人、	50歳～59歳	40人、	60歳～69歳	43人、
70歳～	13人			計	172人



**9. アンケートの質問事項への回答**

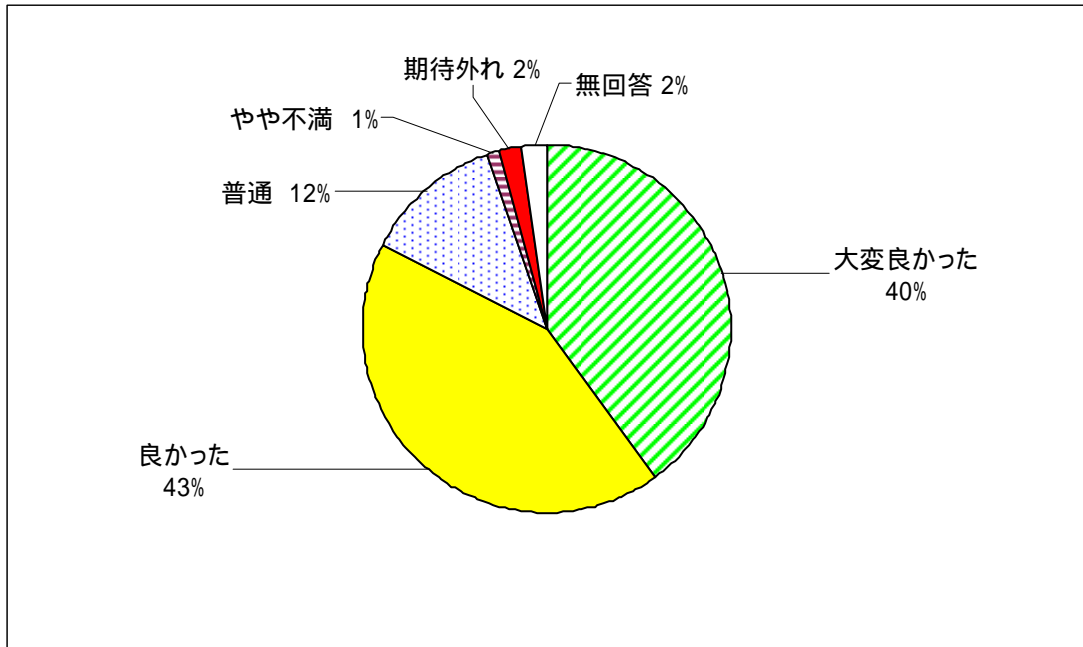
**(1) 本日の「関西教育シンポジウム」をどこでお知りになりましたか。**

日経新聞	104人、	チラシ	4人、	当協会からのD	12人、
知人から	14人、	経済産業省メールマガジン	4人、		
大阪商工会議所メールマガジン	3人、	大学関係諸団体の案内	20人、		
その他	8人、	無回答	3人、	計	172人



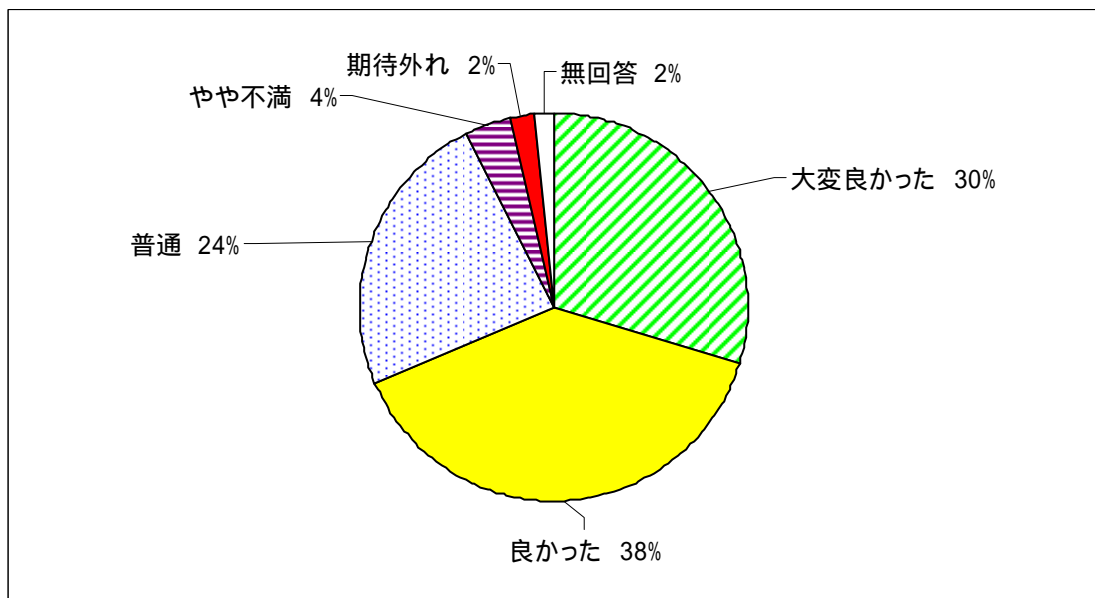
(2) 「関西教育シンポジウム」全体のご感想をお聞かせください。

大変良かった	69人、	良かった	73人、	普通	21人、
やや不満	2人、	期待はずれ	3人、	無回答	4人、
				計	172人



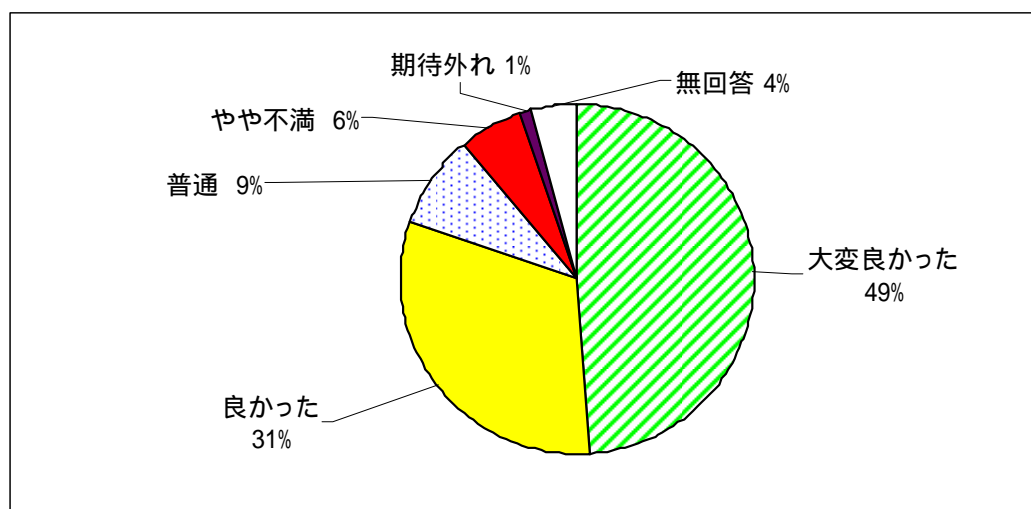
(3) 基調講演「これからの大学教育に望む」のご感想をお聞かせください。

大変良かった	51人、	良かった	67人、	普通	41人、
やや不満	7人、	期待はずれ	3人、	無回答	3人、
				計	172人



(4) パネルディスカッション「産業界が期待する人材とは」のご感想をお聞かせください。

大変良かった	84人、	良かった	54人、	普通	15人、
やや不満	10人、	期待はずれ	2人、	無回答	7人、
				計	172人



(5) シンポジウムのご感想、その他ご意見など、ご自由にご記入ください。

[ 大学教員から ]

関西で初めて行われたことに大変感謝します。大学人(元企業人)として大学と企業の両方の経験をした立場から、両者のギャップ、違和感を感じます。やはり、両者の定期的交流(人事面、文化面、etc)の必要性を感じます。

「社会人基礎力」改めて考えることができ、有意義なシンポジウムでした。今後の教育の中に活かせればと思っております。

今後どのように社会に広めていくかのシナリオを持って進めて行って戴きたい。大学教育と職業教育の違いが分からなくなってきた。このシンポの目的がマニュアル化の方向にもって行こうとしているように思えた。大学の教育を国民に語りかけるときには、役人は役人間のコラボレーションをはかりながらやったほうが良いと思う。

(経産省、文科省、内閣府などの激論の後が感じられない。)

「社会人基礎力」に対する定義(データを含む)が明確でなかったと思う。データに基づいた資料を入手したかった。

企業側の要求として、経産省から「社会人基礎力」を持った人材を大学で育成して欲しいとあった。これに対し、文科省がどう対応して行くのか。大学の教育システムをどうしていくのかの話し合いがないのは不可解である。文科省の対応を聞いたかった。

大学の言い分は社会のニーズを理解した上でのことか。すると自主的に社会ニーズをつかむ努力が必要と思う。

参加者の年齢が高すぎるように思う。若者の実態を認知しているかも知れないが体感される接触、経験が少なすぎるように思います。皆さん、成績が中クラスの24~25才位の学卒者(男性が良い)を、ごく身近な所で使ってみてはいかがでしょうか。弟子に向かえられたら、面白いですよ。

産業界とは何か。産業界に入れておられない分野についても目を向けてる必要がある。

大変有意義なシンポジウムをありがとうございました。産業界、経産省の方の意見を聞く機会はあまり無いので、今後もこのような場を提供して下さい。

大変興味深いテーマで非常に良かったと思います。

非常に価値あるパネルディスカッションで多くの知見が得られました。大変ありがとうございました。関西での同種の催しの開催を楽しみにしております。

内容豊かなものであった。

#### [ 大学職員から ]

「社会人基礎力」について改めて重要さを知ることができ、産業界と大学側(教育界)で求めている。提供しているもののズレが大きいことに驚いた。その差をなくす、また、企業・学校が協力できるよう展開していきたい。

大学関係者として、産業界が大いに期待することを知ることができ、有意義であった。また、大学は「特色」を明確にし、一層の努力が求められていると感じた。

基調講演 大学の実情のあいまいな理解が多々あり、もう少し事実・実態を調べられた方が論旨が生きる。

パネル 社会人基礎力を大学でどのように学ばせるのか、身に付けさせるのかについて考えさせられた。地域の人、社会人の人を授業に呼んで学生が喜ぶ授業を、例えば15回続けるとすれば、本当に学生に何が残るのか？少し疑問。社会人基礎力が知恵であるなら、その基盤となる知識はどこでどのように付けるのか？

多様な意見・取り組みをされていることが分かり、参考になりました。今後のキャリアに活かしたいと思います。

国立大学関係者が含まれていないのは？

フロアーからの質問にはキチンと答えて欲しい。パネルディスカッションのストーリーにQ & Aを絡ませようとしているので、無理がある。別に時間を設けてはどうでしょう。コーディネーターが一層の力量を付けられることを期待する。(フロアーの質問のさばき方に問題あり)

第一部の講演後の10分間の休憩中にご記入いただいた、出席者からの「ご質問」は、37人の方から41件の「ご質問」にのぼりました。このため、回答は時間の関係から、一部のみとさせていただきますこととお詫び申し上げます。

(21世紀大学経営協会)

大変有意義でしたが、テーマが大きいということもあり、もう少し、小テーマを設定しても良かったという気もします。それから、産業界からの要望と大学側の主張が平行線をたどるような場面がありましたが、そういう観点をプラクティカルに前進させるための「知恵」というような切込み方ができると、なお、面白かったのではないかと思います。本日は、ありがとうございました。

パネルディスカッションは、パネリスト間の議論を期待したが、あらかじめコーディネーターが提示していたテーマについて、各人が自分の見解を述べるにとどまっていたのは残念。

パネルディスカッションでは、パネリスト同士の意見交換があれば、良かったと思う。立場の異なる人たちによるディスカッションは大変興味深かった。

各大学のアピールの場になっていると感じた。

共通言語にしようとしている社会人基礎力のコンセンサスをもっと突っ込んで欲しかった。

大学の守備範囲が不明確。広いくくりで大学は何をどうしていくべきかという話が

聞きたかった。

「社会人基礎力」を大学レベルだけで考えていいのか？

e.x. 本日の参加者、中高校関係者が不参加。

産業界（-）大学関係者、通産省 ギャップ大と感じた

大学全入時代となり、大学のレベルダウンにならないのか？

知識なくして知恵はありえない。知識偏重は良くないが、現状では知識のレベルすら落ちている。知識をしっかりと教えるのは、大学だけの責任ではなく、高校・中学・小学校・マスコミ・社会一般・家庭の問題でもある。企業もこれらの教育力を高める取り組みを支援すべきである。知識と知恵をうまくバランスをとりながら、大学以前の段階でも教えていくことが必要なのでは。何でも全てのツケを大学に払わせようとするのは間違い。キャリア形成に重点が置かれていたように思うが、もっと踏み込んで、こういった教育を現在の大学は行わなければならないのかをご意見頂きたかった。

（学生の質の低下が本学では問題になっています。教養は本来大学が教えるべきことなのかも。議論が必要です。）

約3年間という予算措置にとらわれず、未永く継続的な取り組みとして実現していけば望外の喜びです。

大変参考になりました。ありがとうございました。

### 【教育関係者から】

これからの社会がとても心配です。様々な企業・大学で人材育成の研修をさせて頂いておりましたが、大学での学生に対する育成もとても大切ですが、教職員のレベルアップが必要ではないかと、いつも考えさせられます。教職員のレベルアップがないと学生のレベルアップはないと思います。企業と大学職員の間性・意識・意欲・モラルの差はとてもあります。考えて頂きたいです。学生に対しても言葉だけの授業では育成できないと思います。

「社会人基礎力」の提案の経過ならびに今後の進め方が良く分かった。

文科省と経産省の連携をしっかりとやって、本件がバラバラに無駄な努力に終わらぬようにしていただきたい。

各大学の学長のお話が面白かったが、会場の問いに対して、答えが流れてしまっているようだった。また、ニートやフリーターに関しては現代社会の問題、子供たちが今のサラリーマン(大人)を「自分はあるな生き方をしたくない」と見て、安易に道はずしているように思う。

パネリスト6人は多過ぎます。産・学で3人程度で議論を深めるべきでは？

パネルディスカッションではなく、トークになっている。もっと活発な議論・討論が聞きたいものです。

内容・講師陣に比し、時間的に大幅不足。回数・目的に合わせ回数を増やされたい。

### 【学生から】

当たり前のことのように思えたけど、年配の人たちからはそう見られているんだなと感じました。

自分が望んでいる「学び」を大学の方々、企業の方々が共に目指していってほしいのを知り、大変うれしく思った。ただ、今の大学の中心はやはり「教授による講義」であると感じます。

今日は企業の方の本音が多く聞け、学生としては非常に有意義な会でした。学部生のときにこのような視点をもっていれば、就職活動もうまくいって、今また違った人生

が送れていただろうなあ、などと考えながらお話を伺いました。大学と企業の意識の乖離については、本当に解決が難しいと思います。大学の先生の中には、学生の就職活動の時期すら把握していない先生も多くいらっしゃいますので・・・

(私は一流といわれている大学を卒業しましたが・・・)

本当に楽しい内容ばかりでした。それは、エピソードだからだと思います。大学における授業もエピソードや言われておられた社会人になられた方とのキャリアビジョンについて語るという会話が面白いにつきます。

学生の立場から、行政・産業界・教育界がどのような考えを持って、これからの日本を背負う者たちの教育を考えているのかが分かり、良かったです。普段聞く機会がないので、考えを知る上でとても良かったです。

私は岡山大学の学生です。岡大でのキャリア教育「キャリア形成講座」を受けて、大学にもこんなに面白い授業があるのだと思って、関西教育シンポジウムにも興味を持って参加しました。本当に参加して良かったです。予想以上に面白かったです。ありがとうございました。企業や大学のトップっていうと事なかれ主義でつまらないことと勝手に思っていたのですが、ものすごく事起こし主義のトップの方々の話を聞いて考えが変わりました。こういう人になりたいと思いました。やる気に満ちた人になりたいです。

「社会人基礎力」という言葉を初めて耳にしました。この言葉の概念は漠然と頭にはありましたが、この様に1つの単語で定義されることで、理解が定着された感じがします。

#### [ 学生のご父母から ]

大学が社会に対応できる人間の育成に努力しているのが良く分かった。会社が求める人材について良く理解できた。

#### [ 企業関係者から ]

インターンシップ・プロジェクト等、産・官・学の連携を詳しく知ることができ、勉強になりました。一方で、グローバル化が進む中で、英語での実践力養成・教育・カリキュラムに触れていませんでした。今後、工学・法学・経済学等各分野における英語力(教育)が必須と考えます。これらの大学における取り組みに関するシンポジウムを開催していただきたく思います。本日はありがとうございました。特に偏りがなく、多方面からの人材像に関する話を聞くことができた点が非常に良かった。

パネリストのメンバー構成、発言内容が良かった。

産学協同が科学技術の面だけでなく、日本の唯一の資源ともいえる人材活用の面でどこまでも活性化していくことが、我国が国として民族として独自性を保つ為に必要だと思っています。このような活動をさらに進めていただき、今日の様なアピールをもっと多くしていただきたい。

企業社員の皆様の人間教育に従事しております。中小企業経営は悲鳴を上げています。出来る改革はすべてやっていきたいと感じています。

義務教育の正常化が急務です。小・中学校の教育理論の現状に対して厳しい対応が必要です。甘い対応が良くない。例えば、給食費を払わない生徒には食べさせないこと

が必要。

大学教員の内容も良く理解できた。産業界の目的ももっともと思う。若い人に期待することが多大である。今後も、もっと広く、広報することが大切。

電器メーカーに勤めていますが、我々の技術研究所でも産学連携のプロジェクトを行っています。今後も、情報交換などさせて下さい。本日はありがとうございました。

今回、大阪でのシンポジウムということで、同志社大学・大阪商業大学・金沢工業大学の他に関西の民間企業の方々のお話を伺いましたが、社会人基礎力、人間力のレベルアップが中心となる講演でした。教育界・産業界の共通の間となる大学がどれだけ両業界のニーズにマッチした人材を育成できるかが、一番関心を持った内容でした。2007年度問題が始まり、全入時代と言われる中、各大学がどれだけ特色を出して魅力ある学生を育成できるかが、今後の一番の課題では・・・？と感じました。

大学・企業の経営の考え方、必要とする人材の育成で、パネリストの方々から良き意見を聞けたかと思えます。初めて参加したのですが、大学側・企業側で求める要素がプラス面でしか話をしなかったかと思っておりましたが、大学企業間で補完する要素をプラス面、マイナス面をハッキリした話が聞けました。

採用のリクルーターのリーダーをやっていますが、一部の学生は別として殆どの学生が企業研究をしていない。ミスマッチがおのずと出てくることは当たり前です。それを最小限に抑えることを毎年検討しています。

大学卒をすべてホワイトカラーに採用することが難しい時代に入った。

3年間での学生生活で採用することはどうなのか？ 採用後の1年間の教育を大学はどう考えているのか？

パネリストの方々の高い見識が何れも参考になりました。

関西経済社会のさらなる活性化のため、また、日をあらため、別のパネリストを選定し、継続的にシンポジウムを開いて欲しいと思えます。

国公立大と私立大との問題について、別の観点から、もっと突っ込んだ議論をして欲しかった。

パネリストが多いので、もう少し少ない方が良い。特に、大学関係者。

まず、企業自体が組織として、必要な人材がどういうものか、特殊検討チームを持つべきである。企業のトップにリーダーシップが全く見られない日本の企業で、トップから求める人材では、これからは駄目だと思う。まして、国の政策側にも、現実の姿を知らず、又知ろうとせず、対症療法的に対応しているだけである。もっと一般社会らの提言を促す仕組みを持ち、政策に活かし、企業の中にも人材採用・育成に専門チームを持つべきで、それを社会にアピールすべき。

非常に有益であった。

パネルディスカッションについて

ほぼ全般にわたってシナリオどおりで、かつ、シナリオに基づいた説明が冗長でつまらなかった。

例えば、パネリスト同士の見解が分かれるような議論をさせてはどうか。

(全部そうするとディスカッション自体のコントロールできないので、半分程度は既定路線のシナリオどおりが良いが。)

「大学」に関する議論であるにもかかわらず、経産省が文科省の領空侵犯をして出席しているのは、痛快だった。



各パネリストは話が長い。要約力が弱いのではないか？ 「社会人基礎力」のうちの「発信力」「情報把握力」が弱いのではないか？

会場からの質問には、量的にも質的にもほとんど答えていない。それなら質問を書かせるのは聴衆に失礼だ！

質問に対しての答えが不適格であった。本シンポジウムの主旨との乖離が見られた。

ex. 小島先生の質問に対しての各パネリストの返答が曖昧だった。フロアーからの質問に対しての回答も不適切。

さすが、民間企業の野村氏の最初の話、若者に対する苦言は立派であった。

第2部のフロアの質問には答えていない。書いてきた、用意した資料で話をしている。内容はタテマエが多く感じられる。学校の宣伝は聞きたくない。

各大学の取り組みや、問題意識(経産省・大学・産業界)の一端が分かり有意義だった。ただ、資料として配布がいきわたっていない部分があったことと、折角質問が出ているのにあまり回答にならない説明にパネラーが終始している状況があったことには、運営上のまずさを感じました。

第一部の講演後の10分間の休憩中にご記入いただいた、出席者からの「ご質問」は、37人の方から41件の「ご質問」にのぼりました。このため、回答は時間の関係から、一部のみとさせていただきますこととお詫び申し上げます。

(21世紀大学経営協会)

産業界から大学との投げかけに対し、噛み合わないところがありましたが、有意義であった。

金沢工業大学の取り組みはなかなかのもの 成果がどう出ているのかの評価を聞きたかったが、他の大学でも取り入れて欲しいと感じた。

私学だけでなく、旧国立も加えて欲しかった。

現実の問題が分かっていない。もっと具体的な話をして欲しい。大学の先生も役人も大企業の会長もかなりズレてる。

パネルディスカッション前半の「社会人基礎力」については、考えさせられることもあり、興味を持って聞けました。ただ、後半に関しては、ストーリー展開が悪かったと思います。石川学長の話では、学生からの質問があったためか、大学説明会の講演のように感じた。少し、残念です。谷岡学長の話は、分かりやすく良かったです。参考にさせていただける内容もありましたが、最後のパネルディスカッションの進行が良くありませんでした。特に、金沢工業大学の大学説明会を聞きたいのではないので、素晴らしさをもう少し短時間で伝える方法を実践していただければ有難いと思いました。

一人一人の発言が長すぎて、噛み合っていない。もう少し討論になれば・・・。

大学と企業が、社会のため、経済のため、日本のために、共通言語をもって人材教育・育成に取り組んでいくことは重要だと思います。悲しいのは、高校において受験のためだけになっている学校が多く、社会性・人間力が軽視されている基調が強く感じられます。学力と人間力は両輪だと改めて思いました。

関西教育シンポジウムに参加して、大変良かったと思います。今後は、九州でも講演があれば良いと思いますので、よろしくお願いします。

## [ 一 般 ]

パネラーの方がおっしゃっていた話は非常に良く分かりましたが、新聞やテレビで得る情報と大差が無く、より具体的に「社会人基礎力」を身に付けていくための取り組みをお聞きしたかった。

産業界と大学側とのディベートが必要。お互いに理解しあうだけでは、効果が少ない。司会のやり方も問題。

産学共同では、先端を走っている米国の大学との比較、実例を挙げて具体的な話しが聞きたい。

国立・私学格差、資金面での是正を望みたい。6・3・3制は悪いのか、各界の意見を聞きたい。

塩川さんの元気には、感服。今後も、お元気で。

パネリスト数が少し多い。パネリスト間の討論が欲しい。

中小企業経営者のパネリストもおられれば良かった。

自身社会人として改めて「社会人基礎力」の重要性、必要性を認識できた。また、パネルディスカッションを通して、自身が「産業界が期待する人材」に少しでも近づけていける様に努力していきたいと思えた。貴重なシンポジウムでした。

パネルディスカッション最後までグングン引き込まれて、今まで20近くシンポジウムの場所へ行きましたが、今回は一番良かったです。今度また何かあるのか知りたいです。

コーディネーター・・・しゃべり過ぎ

開始時間遅れ・・・時間厳守

産業人に大学に来てもらい、企業が求める人間とは何かを学生に示してもらおう。パネルディスカッションの場で、各パネリストの意見を発表する場になっていたような気がする。テーマである「産業界が期待する人材とは」～「社会人基礎力」育成に向けて～を主題として皆さんでディスカッションする、または、それぞれの立場から意見を交換するという話でないように思える。特に、大学側は、各大学のアピール会のように思えた。興味深いメンバーなのに、お話いただいた内容はその方からだからこそ聞ける話しというわけではなかった。

大変勉強になりました。大学がやらなければならないことが、少しずつ明確になったと思います。

大学教育(現状の)によって、育ててきた知識のみでは、もはや社会対応ができなくなっている。思考力ということに着目していなかったのが、改めて考える機会になったのは、良い経験となりました。

教育基本法(改正)に基づく、大学、私立学校の変革・改革が求められる重要な時期に来ている。大学の数(700～800)の2/3は再編淘汰される時代。マンモス化が能ではない。学問・技術と教育の違いを打ち出し、特色ある大学教育制度に移行し、社会に役立つ学生を創り出して欲しい。

大学は学問をやる場所であって、「社会人基礎力」を養成する場所ではありません！義務教育でやって下さい。

何万人入学させても、数十人しか卒業させない大学があっても、良いと思います。非常に分かりやすく説得力のあるパネリストばかりでとても良いと思います。また、こういうシンポジウムを時々やって欲しいと思います。

長女(中2)の将来の参考になった。また、自分自身の将来にも参考になった。ありがとうございました。

私は66歳で年金生活者です。でも、人間一生「教育」、自分が「夢」を持ち「学ぶ」ことが、楽しい人生を送ることになると考え、本日参加しました。私は企業人間・会社人間として昭和34年入社から平成17年退職(47年間)まで同じ企業(2,500人)で自分の目標であった「経営者」(元社長、元教育委員)までたどり着けました。採用してきた立場から本日のシンポジウムは大学と企業の「ギャップ」を埋める良い機会でした。企業は(私がやってきたのは)十人十色の人を採用して、人づくりをやってきた。「人間力」=汗と知恵を出せる人間=自分に厳しくそして人には親切で、更に仕事を通じて社会に尽くす人=企業人である前に良き社会人である人=次の時代へバトンの渡せる人 産業界の立場から宮内会長、野村会頭ともにズバリ必要人材を大学以下教育現場に投げかけた点は評価できる。根本は家庭を含む教育の改革が必要と考えます。文科省からの出席もあっては良かったのでは。

産業界のお話しも大変勉強になりましたが、学長殿の話が非常に参考になり、興味深く思いました。学校法人になるとき、学長の説明会に行きましたが、全くもって具体性に欠けていた。参加学生も少なかった。学長が前に出て思いを語る大学は活気溢れる良い環境なのだろうとうらやましく思いました。これから企業に自分を売り込んでいく(転職活動中です)わけですが、求められる人間像をアピールできるよう努力します。ただ、大学の在籍中に人間力を刷り込む？ 教育するのは無理がある。結局は、人格・人間性の問題、小学生のときに身に付けて欲しいです。

パネリストが大変深い知識を披露し、突っ込んだ意見発表があり、実りの多いシンポとなった。

産・学・官のそれぞれの立場から提言やご意見を聞かせていただき、大変参考になりました。ありがとうございました。「社会人基礎力」今後は意識して若年者への就職支援に取り組みたいと思います。

産・官・学それぞれの立場から話をしてくださったので、問題点も見えやすかったのではないかと思います。「最後には誰が教育していくねん！」とかよりも、まずは、全員が同じ理解の下、対話をする(そのための「社会人基礎力」)が必要と感じた。非常に充実した良いシンポジウムでした。

「社会人基礎力」を学ぶことができ、とても充実した一日になりました。私は現在25歳ですが、同年代～後輩を見ていると「コミュニケーション能力」が不足していると感じることが多々あります。かつて、私自身も「コミュニケーション能力」が不足していた大学生でしたが、克服するために通学をしながらアパレルメーカーで販売をしていました。様々な年齢層のお客さんと接することができ、克服できました。現在のように産学合同のカリキュラムやキャリアアップセミナー・インターンシップが積極的に行われていなかった頃に学生生活をすごしていましたので、現在大学に通学をしている後輩たちをうらやましく思います。今後、本日学んだ「社会人基礎力」を社会生活で実践していく努力をしていきたいと思います。本日は、ありがとうございました。大阪商業大学に入りたくくなりました。

大変有意義なプログラムで考えさせられました。大阪でのシンポジウムは初めてのことですが、もっともっと関西でも開催を進めて下さい。

関西でのこうしたシンポジウムは少ないので、今後も定期的に行っていただきたい。

関西の活性化のためにも良い機会だと思います。  
ぜひ関西でこのようなシンポジウムを継続して欲しい。  
関西で、今後とも開催して欲しい。